

第22回 焼津市自治基本条例を考える市民会議・記録

平成25年 6月19日 (水) 19:00～21:00

(焼津市役所 603会議室)

1. はじめに

○開会あいさつ

事務局：今回は、各班でPIの進め方についてシミュレーションも含めて検討していただいた。その後、随時、班の打ち合わせをやっていただき、準備を進めていただいている。

- ・この1ヶ月の動きについて振り返っておきたい。
- ・5/13：庁内会議を開催。その時の意見を資料としてまとめた。後ほど説明する。
- ・5/21：議会・全員協議会で説明した。特にご意見等はなく、市民会議でつくった「素案」について了解していただけたと思う。
- ・5/30：PI活動推進会議を開催。資料の確認、日程調整、進め方の検討。
- ・6/15：静岡福祉大学・公開講座
- ・6/18：自治会連合会長の集まりで私から30分ほど「素案」と今後の取り組みについて説明した。会長さん達も概ね了解というか良い反応をいただいた。
- ・今日は、各班からの報告も踏まえて、PIの進め方についてさらに検討したい。説明資料の手直し等についても確認したい。

2. 各班からの報告：第二期PI実施にむけての検討状況

今井：この1ヶ月の動きと現在の状況などについて各班から報告をお願いします。

【4班】

- ・1回打ち合わせを行い。PIの進め方・段取りについて検討、資料の内容確認。
- ・来週、もう1回打ち合わせを行い、詰め切れていないところの検討や、模擬のようにどのくらいかかるか、分かりやすいかどうかなどを確認する作業を行う予定。

【3班】

- ・1度、夜、班の打ち合わせを実施。
- ・確認事項は、PIの当日は魚がしシャツを着用、旗上げ質問はあまり時間がないので3問だけとする。
- ・役割分担を決めた。司会、旗上げの進行係、説明役（前半・後半に分ける。全員が一役を担うように）。
- ・アンケート調査をどうするか。その場では大変だろうと思うので、「ご意見カード」を後日でもいいので公民館に出していただければそれを参考にすることとしたい。
- ・リハーサルをやりたい。一度通しでやってみて、全体でどのくらい時間がかかるのか。省略すべきところがあれば、など。パワーポイントに班で手を加えたいという話もあったので、それが出来上がらないと説明役の人もできないので、それを待って行いたい。7月はじめに予定している。

【2班】

- ・けっこう手間取っているところもある。日程を決めるのに5/21に自治会長のところをお願いに行ったが、なかなか決まらず、昨日ようやく決まった。自治会も忙しく、公民館の都

合で1日だけ。7/14の10時からと18時からの2回開催する予定になった。今後変更があるかもしれない。

- ・それに基づき、今後ミーティングを行うことになっている。目的としては、大井川地区を考えていくにあたり、より多くの人に来ていただき、自治基本条例について知ってもらう工夫をしていかなければいけない。

【1班】

- ・メンバーが5月は忙しく、全体の会議に出られない方もいたので、班で全員集まり、今までの流れの確認した上で今後のスケジュールを議論し、3回のPIの出欠確認を行った。役割分担はさらに今日詰める。2人1組で3回なので、全員が説明役になる。
- ・アンケートは、今日担当の方が案をもってきている。6/28開催なので日にちがない。
- ・アイスブレイクも3つくらい検討している。今日検討したい。
- ・今日は確認事項がたくさんあるが、これから話し合いたい。

3. 第二期PIのスケジュール、資料に関する情報共有と意見等の活かし方 (事務局)

○スケジュールについて

- ・今日の市民会議以降、各地域でPIを実施。7/14には踊夏祭でPR活動。6/28までで予定されているPI活動を終了。
- ・次回の市民会議は7/21に予定していたが、参議院選挙になりそうなので、7/27(土)あたりで検討(会場は未定)。8月の市民会議は8/18に開催し、この2回でPIの意見等を委員の皆さんがどう感じたかということを反映したり、庁内の意見を踏まえて「案」として整理する作業をやりたい。9月はじめには、「案」を市長に提出したい。
- ・9/15にフォーラムを予定しているが、会場・日時が決まっているだけなので、内容や進め方についてはまた皆さんと話し合っ検討したい。できれば「素案」にある『市民会議』(市民・市長・議会が一同に会してテーマについて話し合う)の実験になるような会にできればと考えている。
- ・PIのスケジュールについての資料は、チラシと日程表がある。

○「素案」説明資料の修正について

- ・前回の市民会議以降、若干だが「素案」の修正を行った。PI推進会議で進め方を話し合う中で少し気になる部分が出てきたため、修正した。
- ①資料8～9ページ。「第4市役所」の『市長』、『市役所の組織』、『職員』の“研修や実践の機会”などについて内容の重なりを整理した。
- ②資料12～14ページ。「第6自治のしくみ」の中の“地域コミュニティ”という言葉が何を指すのかわかりにくいのでやめて、地縁のつながりについては、“地縁によるコミュニティ”に統一した。パワーポイント資料も整合させている。“地域コミュニティ”については、今後の地域のあり方の提案として話をするかどうか各班にお任せしたい。

○行政からの意見について

- ・権利・義務関係、自助・共助に関する記述への意見があるが、むしろ条文化にあたって庁内でよく検討すべきことだと思う。これらは大きなポイントだと思うが、検討により「市民案」から変わるところが出てくる可能性もある。

- ・理念の記述、前文への書き込みは今後やっていくこと。
- ・地域コミュニティの捉え方が限定的というのは、そんなことはないと思う。
- ・まちづくりの進め方に「合意を基本」とあるところへの疑義もあるが、私たちはそういう考え方ということで良いと思う。
- ・議会の関わりについて、どこにどこまで書くかということへの問題提起もあり。
- ・住民以外の納税者の扱いについては、ここでも議論しているが、問題提起あり。
- ・市民会議のイメージが分からないとの意見あり。決定の場ではない、市民・市役所・議会の三者が情報共有、意見調整をするということで説明。
- ・条例の位置づけについて問題提起あり。“基礎”とか“尊重する”といていることについて。推進委員会の位置づけについてははっきりした方がいいという意見もあった。
- ・あとは表現の問題がいくつか。法律上の問題や指摘もあるので、皆さんがすべて解決ということではなく、庁内での検討も含めて解決したい。

今井：議員さんにも各地域のPIにご参加いただけるようにしたい。

- ・各PI活動の終了後、「振り返りシート」に現場での印象を書き残し、それを手がかりに「素案」から「案」への修正検討を行うとよいと思う。

事務局：6/15の静岡福祉大学・公開講座で話をした時に、良い問題提起をいただいたので、PI意見と同じように検討していただければと思う。

- ①自治のしくみをつくって実際にどう推進するか？市民に財源を移すなど。
 - ②学ぶこと、学び続けることの重要性。学習するしくみや学ぶ場。
 - ③どうやってみんなで一つの方向性を共有していくか？そのしくみは？
- ・6/18の自治会連合会長での集まりでも自治会長から指摘があった。
 - ④自治会そのものについて記述するか？

4. 各班で第二期PI活動の実施にむけた最終的な検討・確認など

(各班で第二期PI活動の進め方について実際の進行のイメージを共有しながら話し合い)

5. 各班から発表～第二期PI活動のポイントと抱負について

今井：各班から、何をどこまで話し合い何が決まったか、検討課題として何が残っているか、全体で確認しておきたいことなどについて報告してください。

○各班からの報告

【1班】

- ・日程の変更がある。東益津公民館。7/11(木)から7/10(水)になった。変更理由は11日に病院のシンポジウムがあり、会長さんがそちらに行ってしまうため。時間(19時～)は同じ。
- ・役割分担(受付、司会進行、はじめのあいさつ、終わりのあいさつ、説明、討論タイムの仕切り)について決めた。
- ・タイムスケジュールは、30分前に集合。あいさつ5分、アイスブレイク5分、説明45分、休憩5分、質疑応答25分、あいさつ5分で1時間30分。雰囲気盛り上がりれば時間延長。そうなって欲しい。

- ・アイスブレイクの内容もつくった。
- ・旗上げアンケートは、質疑応答の時に質問が出る・出ないがあると思うので、雰囲気を見て実施したいと思う。項目もつくってある。
- ・最初、全体にアンケートも配布する。
- ・それぞれが自分の役割分担のところで工夫して、時間を守り、いかに盛り上げるかを個々に研究して各自スキルアップする。
- ・人数の配分も決まった。(各会場)

事務局：集合が開始30分前では遅いと思う。会場設営などもあるし、早い人は30分くらい前に来たりする。会場設営を30分前に完了するくらいに。

→1班：1時間前の集合とする。

【2班】

- ・もう一度、自治会から「この日にできる」という話があると思うが。現段階では7/14(日)の2回を前提として検討。
- ・班のメンバーで事前に集まり、色々なことを検討し、決めようということで、6/25(火)と7/11(木)のいずれも19時から打ち合わせをする。どこか会議室の確保をお願いしたい。
- ・議員さんに今回の案について聞いてもらいたいということで、議会事務局とも話し、PI活動にぜひご参加くださいということをお願いに行く。
- ・旗上げアンケートについては、内容を考えてきた。
 - ①説明の前：焼津をもっと住みやすいまちをよくするために私たち市民ができる取り組みについて考えてみましょう。何ができるか？と提案
 - ②案の説明後：皆さんが①について考えた取り組みは自治基本条例ができることによって実現しやすくなると思いますか？
 - 「思う・思わない・わからない」を示してもらう。
 - それぞれの回答を上げた理由をたずねる
- ・帰りに渡すアンケートに、性別・年代を書く欄と「ご意見、ご感想をお聞かせください。今回のPIで印象に残ったこと、ご意見・ご感想などなんでも」という欄を設ける。

2班：今日の庁内からの意見については今回のPIでは反映しなくてよいのか？

→事務局：難しい話でもあり、あえてこちらからPIで投げかけなくてもよいと思う。

【3班】

- ・旗上げの件は、PIの当初にやって、場の雰囲気を柔らかくしたい。メンバーが作成したアイスブレイキングの案で年齢と行ってみたい地域を使わせてもらいたい。年齢は実年齢ではなく心の年齢で。行ってみたいところは、どんなところに興味があるかということ。今井案の2を柔らかくして導入の説明に入っていきたい。
- ・説明については、全部をやろうとするには時間が足りないので、重点項目を設定する。基本的考え、市民、自治のしくみ。時間があれば地震もやりたい。
- ・他の班のPIに積極的にお邪魔し、勉強させてもらいたい。自分達のPIの前に感想や取り入れたいことなどを話し合いたいと考えている。そこで、19時からの会合に17時に集合する予定。夕食におにぎりでも食べながらやろうと言っている。

【4班】

- ・前回の話し合った内容を再度確認した中で、もう少し詰めなければいけないところを整理して、説明資料を素案と解説でどこがポイントになるかということをも多少絞って下線を引いたものを用意したので、今日持ち帰っていただき、ここは省いていいかなとか、具体的な例を追加して言った方がいいかなということをも次回、6/24(月)の打ち合わせまでに宿題としてやってくるということにした。
- ・旗上げアンケートは、①最初にアイスブレイクで入れるが、②途中でも長いので真ん中あたりで気分転換も含めて内容について「ここはどうか？」と聞けるような質問を用意したり、③質疑に入る時、なかなか質問が引き出せなかった時のために「わかった・わからなかった」とか聞いて、「じゃあどこがわからなかったのですか？」と聞いたりできるように用意して、必要に応じてできればと思う。その内容も準備しておきたい

○全体で話し合いなど

- 1班：アイスブレイクや旗上げアンケートは、各班独自のものでよいと思うが、全体で共通するアンケートは必要ないか？
- 事務局：こちらでも検討したが、項目の設定が難しかった。それならば、いつもの「感想カード」のように『本日説明した「素案」について…』というだけでもいいのでは。
- 1班：前回、コミュニティの班がつくったアンケートを変えたもの。ちょっと見てもらいたいと。
- 事務局：読み上げると、(1)参加が初めてか2回目か。(2a)必要性についてわかったか、わからなかったか。(2b)わからなかった場合、どこがわからなかったか。(3a)内容についてわかったか、わからなかったか。(3b)わからなかった場合、どこがわからなかったか。(4)「素案」の中でどこに注目するか。という設問。
- 1班：「その他何でも自由にお書きください」という項目もあった方がよいという意見も。
- 事務局：内容について「わかった、わからなかった」、「どこか」を聞いて、どう活用するのかということと、必要性について聞いて、「わからなかった」が多かったらさらにPIをやるのかとか、どう対応するのかということがあると思う。
- 今井：アンケートの難しさは、受け取った結果をどうするかある程度決めてから設問をつくらないと、聞いただけで終わってしまう可能性がある。1班の意見を集める工夫として筆記型のアンケートをやる場合、活かし方もイメージして問いを検討する必要があるのと、参加者が記入する時間を確保してその場で書いてもらった方がいいと思う。そうする場合、短い時間内に書いてもらえるよう質問の数を絞り込んだ方がよい。持ち帰って書いてもらうアンケートだと、書いてもらい、集めるのが大変になる。各班の工夫に委ねると良いと考えるもう一つの理由は、PIは相手のあることなので何がヒットするか予想しきれない部分があるので、各班それぞれの方法で多様な意見を集めることができると良いと思うので、全体で統一するのは、説明資料(素案)だけで基本的に良いと思う。「感想カード」のような形で、何か具体的意見があれば何でも書いてもらえる形でもいいのではないかと。
- 筆記型アンケートを工夫するなら、聞きっぱなしにならないよう、今回のPIの目的の一つである、「素案」をより市民感覚に合ったものにするための意見を書いてもらえるような設問を設定することが大事だと思う。
- 口で言うよりも書く方が得意な人もいると思うので、そういう人の意見を大事にできる工夫はあると良いとは思っている。

3班：アンケートをとるにあたって、筆記用具は用意するのか。

→事務局：前回と同様、こちらである程度は用意する。

3班：終了後、問い合わせ先などを聞かれたら。

→事務局：現状としては、事務局の政策企画課ということで。チラシに入っている。

3班：パブリックコメントなどはないのか。

→事務局：パブリックコメントは、市で条例案の形にしてから行う予定。今年の11月頃あたりと考えている。

事務局：先程のアンケートについては、全体に共通するものとして「感想カード」のようなものは事務局で用意する。各班が工夫して用意する場合はそれぞれ対応する。

→3班：聞き方としては「印象に残ったこと」と「全体的な感想」の2つがいいと思う。

→事務局：サイズはA5判で。

4班：説明について「具体的にどういうふうになるのか？」という質問が出るかもしれない。

その場合、身近な例として(旧)大井川町で「まちづくり基本条例」があったことで意識づけがあり、活動が活発になったということを紹介した方が身近に感じてもらえると思うが、そういうことを言ってもいいか？

→事務局：良いと思う。一番聞かれるのは「条例ができてどうなるのか？」ということだと思うので。その時に、「1年や2年で劇的に何かが変わるわけではないけれど、例えば…」ということで、今のよう話をしていただければと思う。大井川では「まちづくり条例」をつくって、しくみができて、地域の活動が活発に行われた、という話。

委員：「なぜ合併の時にその条例を使わなかったのか」と聞かれたら？

→事務局：「それは市に聞いてください」ということで、皆さんが答えなくても良いと思う。

事務局：記録をどうするかということがある。事務局としては、必要と思われることや重要論点についてメモはとるが、記録係としての役割は各班でお願いしたい。全部行けるわけではないので。

今井：各班、1回ずつはPIに参加するので、その際は記録を取る。

意見を書き残してもらうことの意味はここでもあって、参加者に書いてもらえば発言のメモを取るより確実に意見を残してもらえるというメリットもある。

今日、提案した「振り返りシート」も、市民委員さん自身に記憶が新鮮なうちに印象に残った意見を書き残してもらえば大事な意見は大体おさえられるという意味がある。

6. おわりに

事務局：(閉会)